

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2015年度（前期）指定公募①

「市民の集い開催への助成」

報告書

テーマ：

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

申請者：^{つちや}土屋 ^{たかし}崇（土屋医院・医師）

団体：多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ

助成対象年度：2015年度前期

2015年12月4日

飯能市・日高市 市民フォーラム

概 要

1、 テーマ

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

2、 目的

10年後の2025年には、医療や福祉の専門職だけの連携では対応しきれない超高齢社会がやってくる。今回の市民フォーラムは、在宅医療や介護の現状を知ることによって「どのように生きるべきか、死に対してどうあるべきか」を考え、家族や友人などと話すきっかけを作ること、また、高齢化が進むとより罹患者が増える認知症の症状を知り、地域に普及活動を進めている“認知症相談窓口”や地域包括支援センターの機能を理解し、一人で悩まずにかかりつけ医やかかりつけ薬局など様々な地域にある相談窓口気軽に相談できる場所があることを知ってもらい、市民と一緒に10年後のわが町がどうあればいいかを主体的に考える機会とする。

3、 スケジュール

平成27年10月31日（土） 13：30～16：00

進行役：福島 毅（飯能地区薬剤師会 会長）

13：30～ 開会挨拶

飯能市長 大久保 勝

多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ 会長 土屋 崇

13：45～ 基調講演

『家族が認知症になったら』

～認知症の見つけ方と見分け方、そして在宅医療とは～

医師 古屋 大典 先生

（埼玉医科大学国際医療センター 総合診療・地域医療科）

14：45～ パネルディスカッション

コーディネーター 医師 小川 晃男 先生

（医療法人仁知会 小川医院 理事長）

パネラー① 『口腔ケアと認知症について』

歯科医師 大野 康 先生

（医療法人社団柏楓会大野デンタルクリニック 院長）

パネラー② 『在宅で家族を見送って』

市民代表 浅見 光男 氏
パネラー③ 『在宅医療・介護の連携について』
阿部 昇吾 氏 (社会福祉法人飯能市社会福祉協議会)

16:00 閉会挨拶
日高市健康福祉部介護福祉課 課長 大沢 宗明

4、 定 員 200名

5、 参加者 209名 内訳

市 民	110名	女性	140名
医療関係者	25名	男性	69名
行 政	13名		
社 協 職 員	4名		
福祉関係者	57名		

6、 感想

平成26年1月に、飯能地区薬剤師会と飯能地区医師会が中心となって始まった多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェですが、今まではテーマを設けて立場の違いはあるけれど職位や職種を越えて、共通の課題に対して話し合いを積み重ねていく形式の情報交換や症例検討を実施してきました。ワールドカフェ形式の話し合いは、意見の積み重ねによっての相乗効果があるものの、何かを決定したり政策的に進めていく点においては不向きな手法でした。各団体の代表者で役員会を組織化し、厚生労働省医政局の在宅医療・介護連携推進事業にある取組例を参考に、行政と一体となって研修会などを実施していくことを確認し、平成27年度は市民フォーラムの企画、認知症サポーター養成講座の実施、認知症相談窓口の設置と周知活動、地域連携・緩和ケアパスの作成を実施していくこととなりました。参加団体は、飯能市と日高市の市民を含めて、それぞれが別の組織に属している任意団体であり、事務局を飯能地区薬剤師会に設置しましたが、予算のないところから四師会からそれぞれ出資してもらい、会を運営してきました。特に役員会においては、業務終了後の貴重な時間を手弁当でアイデアを持ち寄って運営しています。

今回、市民フォーラムの実施に当たり、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団へ助成申請を提出し、市民フォーラムが開催することができました。会場の都合により、当初予定していた定員300名から200名へと変更となりましたが、多くの市民の方に医療や福祉が果たしている役割や在宅で亡くなる、看取ることの意味を考えるきっかけとなったと実感しています。

基調講演をいただきました埼玉医科大学病院国際医療センターの古屋大典先生

は、約4年間山間部の飯能市東吾野医療介護センターでの勤務経験があり、その際の往診した際の経験談や認知症の疾患、特に糖尿病との関連性等について講演いただきました。老いることは、知ること、そして素敵なことであること。薬で治るもの、手術で治るもの、そして予防できるものを紹介いただきました。また、普段の生活習慣でアルコールを適度に楽しむことも必要だが、いきいきと暮らすためにどうしたらいいかを具体的に教えてもらいました。社会、地域との関わりを増やすこと、趣味を持つことや夢中になることや若い人と接して輝いていた頃の自慢話をしたり、逆に悩みを聞いたりするといいと助言いただきました。また、これからの在宅医療・地域連携については、在宅介護サービスやサービス付き高齢者専用賃貸住宅などと在宅療養支援診療所や地元の病院が連携して、また高次医療機関である大学病院や行政、地域で支える時代となっていく。気になったら、病院でも行政でも地域包括支援センターでも身近なところに相談してくださいと話されていました。

パネラーの大野康先生も、往診や地域医療、教育に積極的に活躍しており、そのご経験を踏まえて歯を失うことと認知症の関係や呼吸、唾液、姿勢という口や食の関わりポイントについて細かく解説いただきました。市民にとっては、初めて聞く話も多かったと思います。改めて口腔ケアの大切さを実感できました。

2番目のパネラーの浅見光男さんは、最愛の奥様をご自宅で看取られた経験談をお話いただきました。奥様は、大好きな自宅で家族に見守られて最期を迎えられました。病気の発見からわずか2年半、出来るだけ2人の小さな子どもと楽しい思い出を作ろうと色々な場所へ出かけていき、ご夫婦とご家族の時間を送られていました。奥様が他界された後に、自宅での看病では往診医や訪問看護師、ケアマネジャーに助けられたという話を伺いました。今回の市民フォーラムを依頼した際にも、自分の経験談が何かの役に立つのであればと快く引き受けていただきました。在宅医療の際に、主治医と往診医、訪問看護師やケアマネジャーとの関わりが非常に大切になります。病気の理解と受容、そして麻薬の管理などのプロセスについても掻い摘んでお話いただきました。

3番目のパネラー阿部昇吾さんからは、飯能市と日高市で進めてきた在宅医療・介護の連携の取り組みである当会の紹介を中心にしていただきました。ワールドカフェの活動として、情報交換や顔の見える関係から始まり、今回の市民フォーラムの開催、また同時に進めている認知症相談窓口の設置普及と地域連携・緩和ケアパスの作成など様々なポイントから在宅医療と介護の連携を深めており、また医師会や薬剤師会と行政や社会福祉協議会などが手を取り合って、また、そこに市民も加わっていただいております。また、阿部さんの働いている地域包括支援センターについての機能もご紹介いただきました。最後に、埼玉医科大学病院国際医療センターの精神腫瘍科の大西先生と臨床心理士の石田さんを紹介と、精神腫瘍科につ

いて癌患者さんはもちろん、家族外来や遺族外来を行っていることを参加者に紹介されました。

参加者からは、「良い話が聴けて良かった」と満足されている様子でした。市民が出来ること、在宅医療や介護に携わっている専門職が出来ることはそれぞれあるかと思いますが、“まずは出来ることから始める”そのきっかけの第一歩になった市民フォーラムとなりました。

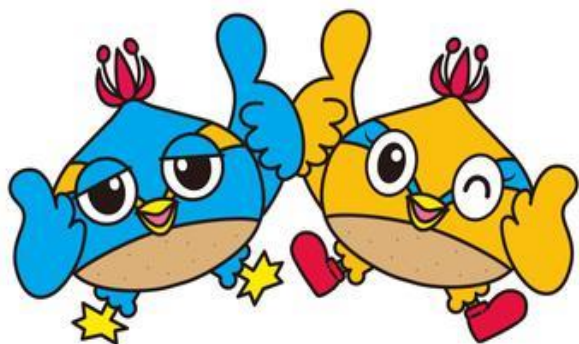
この市民フォーラムは、

“公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団”の助成により実施されました。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業

飯能市・日高市 市民フォーラム

「在宅医療」知っていますか？
家で最期まで療養したい人に。



日高市のマスコットキャラクター
「くりっかー」と「くりっぴー」



森林文化都市・飯能市の
イメージキャラクター
夢馬（むーま）

平成27年10月31日

主催：多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ

共催：飯能地区医師会、飯能地区歯科医師会、飯能地区薬剤師会、飯能市柔道整復師会、
日高市柔道整復師会、飯能市社会福祉協議会、日高市社会福祉協議会、飯能市介護サービス事業者協会、
飯能市介護支援専門員協議会、飯能市地域包括支援センター、日高市地域包括支援センター、
埼玉県狭山保健所、飯能市、日高市

「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に。

本日の予定

司会：福島 毅（飯能地区薬剤師会 会長）

13：30～ 開会挨拶

飯能市長 大久保 勝

多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ 会長 土屋 崇

（一般社団法人飯能地区医師会 副会長）

13：45～ 基調講演

『家族が認知症になったら』

～認知症の見つけ方と見分け方、そして在宅医療とは～

医師 古屋 大典 先生

（埼玉医科大学国際医療センター 総合診療・地域医療科 教授、診療部長）

14：45～ パネルディスカッション

コーディネーター 医師 小川 晃男 先生

（医療法人仁知会 小川医院 理事長）

パネラー① 『口腔ケアと認知症について』

歯科医師 大野 康 先生

（医療法人社団柏楓会大野デンタルクリニック 院長）

パネラー② 『在宅で家族を見送って』

市民代表 浅見 光男 氏

パネラー③ 『在宅医療・介護の連携について』

阿部 昇吾 氏（社会福祉法人飯能市社会福祉協議会）

16：00 閉会挨拶

日高市健康福祉部介護福祉課 課長 大沢 宗明

開会挨拶 (13:30～)

飯能市長 大久保 勝

Profile…平成25年8月に飯能市長就任。「市民サービス日本一の飯能市」を目指して、日々奮闘されています。今年6月には、宮沢湖に2017年「ムーミン」のテーマパークがオープンすることが決定しました。横浜市中区との友好交流協定や飯能を舞台にした人気アニメ「ヤマノススメ」のイベントを開催したり、「飯能×よしもと ワクワクする街づくりプロジェクト」では、よしもと芸人 天狗が飯能ワクワクPR隊長に就任し、市長のワクワクする街づくりが展開しています。

【メモ】

主催者挨拶 (13:40～)

多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ 会長 土屋 崇 (土屋医院)

Profile…一般社団法人 飯能地区医師会 副会長、飯能市介護保険認定審査会委員、内科・理学診療科を診療科目に持ち、常に患者さんの立場に立った医療を実施されています。原市場地区などで通院ができなくなった方の訪問診療も行っており、周辺住民の皆さんの頼れる身近なお医者さんとして活躍しています。

【 メモ 】

基調講演 (13:45～14:45)

『家族が認知症になったら』

～認知症の見つけ方と見分け方、そして在宅医療とは～

講師 古屋 大典 先生 (埼玉医科大学国際医療センター・医師)

Profile…現在は、日高市の埼玉医科大学国際医療センター総合診療・地域医療科(月・火・木・金・土)に勤務。水曜日は、飯能市東吾野医療介護センターで診察をしています。総合内科、内科救急、神経内科、脳卒中内科が専門。平成22年4月に旧飯能市立病院を複合施設の飯能市東吾野医療介護センターとして開設に貢献されました。開設後は往診や訪問診療を実施したり、糖尿病やアンチエイジングなどの講演会を実施。地元のお祭りでは職員総出で健康相談会を実施するなど地域との繋がりを大切にされています。

【メモ】

パネルディスカッション (14:45～16:00)

コーディネーター 小川 晃男 先生 (小川医院・医師)

Profile…医療法人仁知会 小川医院 理事長、飯能市高齢者及び障害者虐待防止等ネットワーク会議 会長、飯能市介護保険認定審査会委員。飯能市双柳で胃腸科・内科・外科・肛門科の診療し、切らない痔の治療を行っています。胃、大腸の内視鏡検査、内視鏡的ポリープ切除も施行しています。日本消化器内視鏡学会の指導医、日本消化器病学会の専門医、日本外科学会の専門医。

【メモ】

パネラー① (14:45～15:15)

『口腔ケアと認知症』

講 師 大野 康 先生 (大野デンタルクリニック・歯科医師)

Profile…医療法人社団 柏楓会 大野デンタルクリニック 院長、飯能市地域包括支援センター運営等協議会 会長、全国各地で講演会を実施するなど活躍中です。訪問診療も積極的に実施しています。また、原市場地区ではPTAや地域と共同で「原市場の森を育てる会」の事務局として活躍しています。原市場地区社会福祉協議会でも副会長として地域活動を牽引しています。

【メモ】

市民フォーラム

『口腔ケアと認知症』

はじめに

本日のテーマ「認知症」、実は歯科とも深い関係があります。これから、皆様のご家族のために、お知り合いのために、そして皆様ご自身のために、以下のお話をします。

- (1) 歯を失う病気の話
- (2) 認知症を引き起こす歯周病の話
- (3) 歯を失うことと認知症の関係
- (4) 歯科医院で気づく認知症の兆候
- (5) 認知症になってしまっても ～口腔ケアの豊かな世界～

おわりに

口や食の関わりは生きる意欲を引き出します。在宅での療養が、本人や家族、関わる全ての職種にとって、笑顔のあふれる、心の通じ合えるものとなるために、また安心して暮らし続けられるものとなるために、口腔ケアを含む口や食の関わりが一つのヒントになれば幸いです。

パネラー② (15:15～15:30)

『在宅で家族を見送って』

講師 浅見 光男 氏 (市民代表)

Profile…飯能市在住、平成24年度に養護老人ホーム敬愛園の施設長に就任。今年、最愛の奥様をご自宅で見送られました。往診医の小室医師（小室内科消化器科クリニック）や訪問看護、介護支援専門員の言葉に支えられた経験を今日は皆さんへお伝えします。奥様は葬儀やお墓のことを、ご自分で決められ、最愛の家族に見守られ旅立たれました。

【メモ】

パネラー③ (15:30～15:40)

『在宅医療・介護の連携について』

講師 阿部 昇吾 氏 (飯能市社会福祉協議会・基幹型地域包括支援センター)

Profile…平成18年度から飯能市地域包括支援センターの社会福祉士として従事。平成27年度には、飯能市社会福祉協議会が基幹型地域包括支援センターを立ち上げるため社会福祉法人名栗園から在籍出向。第6期介護保険事業計画の在宅医療・介護の連携や認知症施策の推進、総合事業の取り組みなどを関係機関と連携しながら実施しています。

【メモ】

『在宅医療・介護の連携について』

2005年（平成17年）
出生数106万人
死亡数108万人

○ 現在の日本

人 口	1億2822万人	
外国人住民	206万人	1.61%
65歳以上人口	3282万人	高齢化率25.6%
75歳以上人口	1570万人	12.2%
100歳以上	59,182人	

日本の人口は、平成21年がピークで6年連続減少。外国人は前年より約6万人増加。

※総務省統計局 人口推計 -平成27年7月報-

出生数	101万8,003人	
死亡数	127万6,965人	
死亡原因①	37万人	悪性新生物
死亡原因②	19.6万人	心疾患
死亡原因③	11.8万人	肺炎
死亡原因④	11.3万人	脳血管疾患

※厚生労働省 平成26年人口動態統計の年間推計

○ 2025年（平成37年）問題

⇒1947年（昭和22年）から1949年（昭和24年）の3年間で805万人が出生（267～239万人）

○ 埼玉県の75歳以上人口

2010年 58.9万人（割合 8.2%）
2025年 117.7万人（割合 16.8%）

○ 認知症高齢者

⇒ 462万人（有病率 推計15%） 2013年6月厚生労働省研究班
2012年時点 調査期間…平成21年～24年度

○ 介護保険料（平成27年～29年度 基準額）

飯能市 人口 約8.1万人 5,390円（+288円）
日高市 人口 約5.6万人 4,600円（+300円）
国の試算 平成37年 介護保険料 8,200円

○ 地域包括支援センターとは

・平成18年度の介護保険法改正により、全国の市町村にできた高齢者に関する総合相談窓口。飯能市には5か所、日高市には3か所の地域包括支援センターがあります。それぞれの地域包括支援センターには、保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士がいて介護予防事業や権利擁護、市内の介護支援専門員の研修や助言などを主たる仕事としています。また、要支援1・2の認定が出た方の介護保険サービスの利用調整を行っています。

○ 地域包括支援センターが相談・支援する高齢者

- ☆ 虐待（暴言、暴力、年金搾取など）を受けている高齢者、また虐待をしてしまっている養護者
- ☆ 認知症高齢者、介護している家族
- ☆ 医療機関への受診拒否をしている高齢者、家族
- ☆ 精神的な疾患（うつ病、統合失調症など）がある高齢者、家族
- ☆ 経済的な問題（無年金など）がある高齢者、家族
- ☆ 介護支援専門員が抱える多問題家族の相談・支援
- ☆ 末期がん、ALSなどの難病、依存症（アルコール、共依存など）のある高齢者、家族
- ☆ ゴミ屋敷、近隣苦情のある高齢者、家族

○ 多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェの活動

- ☆ 情報交換、症例検討
- ☆ 市民フォーラムの企画、開催
- ☆ 地域連携・緩和ケアパス
- ☆ 認知症相談窓口の普及

○ 大切なこと

- ・家族と将来のことを話し合う。
- ・かかりつけ医を持つ。
- ・普段から口の手入れをしっかりと行う。
- ・かかりつけ薬局を持ち、薬や健康について相談する。
- ・出来る限り活動的な毎日を送る。⇒睡眠、運動、食事（栄養）が大切
- ・外に出かける、笑う、楽しみを持つ。
- ・友人などと話す。
- ・何かあれば、民生委員児童委員や地域包括支援センター、認知症相談窓口
に相談する。

閉会挨拶 (16:00)

日高市健康福祉部介護福祉課 課長 大沢 宗明

Profile…日高市社会福祉協議会で地域包括支援センターの立ち上げに尽力されました。また、昨年度までは社会福祉課障がい福祉担当として活躍しており、平成27年度に介護福祉課 課長に就任。多くの福祉関係者との交流があり、幅広いネットワークがあります。日高市では、筋力トレーニングとして理学療法士が「生き生きクラブ」「貯筋体操クラブ」を実施しています。

※日高市では、30分300円で買い物代行や草むしりなど住民相互の有償ボランティア活動「地域おたすけ隊」が活躍しています！

【メモ】

『多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ』 について

- 団体名 : 多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ
- 代表者名 : 会長 土屋 崇 (一般社団法人 飯能地区医師会 副会長)
- 活動内容 : 多職種による情報交換、症例検討、市民フォーラムの企画、
認知症相談窓口の普及、地域連携・緩和ケアパスの作成 等

平成26年1月に飯能地区薬剤師会が中心となり、医師会、歯科医師会、行政、訪問看護、ケアマネジャー、地域包括支援センターなどの計40名が集まり、「飯能地区における地域包括ケアシステムの構築～何かからはじめたら良いか～」をテーマにワールドカフェ形式で話し合いを実施しました。その後、現在までに計4回の症例検討や合同勉強会を実施しています。

厚生労働省の在宅医療・介護連携推進事業にある取組例を参考に、飯能・日高地区の在宅医療・介護がより充実していくように、様々な角度から市民や関係団体と連携して会を運営しています。

- 活動目的
 - ① 顔の見える関係を構築する。
 - ② 同じ地域で在宅医療・介護に携わる多職種が気軽に意見や情報を交わす場を提供する。
 - ③ 地域・医療・福祉が連携することで「住みやすい飯能・日高」「安心に暮らせる飯能・日高」を構築する。

○ 参加団体・参加者など

市民、飯能地区医師会、飯能地区歯科医師会、飯能地区薬剤師会
飯能市柔道整復師会、日高市柔道整復師会、飯能市社会福祉協議会
日高市社会福祉協議会、飯能市介護サービス事業者協会
飯能市介護支援専門員協議会、飯能市地域包括支援センター
日高市地域包括支援センター、埼玉県狭山保健所、飯能市、日高市

飯能市・日高市 市民フォーラム

「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

発行：多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ

発行所：有限会社 山村印刷

平成27年10月31日 発行

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業

飯能市・日高市

市民フォーラム

「在宅医療」知っていますか？

家で最期まで療養したい人に。

平成**27**年**10**月**31**日（土）

13:30～16:00

会場：飯能市役所別館 2階

定員：200名（先着順）



基調講演

『家族が認知症になったら』

～認知症のを見つけ方と見分け方、そして在宅医療とは～

講師 古屋 大典（埼玉医科大学国際医療センター・医師）

パネルディスカッション

コーディネーター

小川 晃男（小川医院・医師）

パネリスト

『口腔ケアと認知症』

大野 康（大野デンタルクリニック・歯科医師）

『在宅で家族を見送って』

浅見 光男（市民代表）

『在宅医療・介護の連携について』

阿部 昇吾（飯能市社会福祉協議会）

申込・問合せ先：電話 **042-983-8700** FAX **042-973-8875**

E-Mail kikan@hannosyakyo.or.jp

主催：多職種連携座談会 飯能・日高地区ワールドカフェ

共催：飯能地区医師会、飯能地区歯科医師会、飯能地区薬剤師会、飯能市柔道整復師会、日高市柔道整復師会、飯能市社会福祉協議会、日高市社会福祉協議会、飯能市介護サービス事業者協会、飯能市介護支援専門員協議会、飯能市地域包括支援センター、日高市地域包括支援センター、埼玉県狭山保健所、飯能市、日高市